

都市環境プロジェクト実習 グループ報告書

グループ: 木全 班 班長氏名: 浅井一也 口頭報告者氏名: 浅井一也

アドバイザー教員の人のところに、アポや今後の方針についての相談をしに行った。

道路管理 - 役所 (緑政土木局)

交通管理 - 警察

ハード的対策

交通容量 → 増

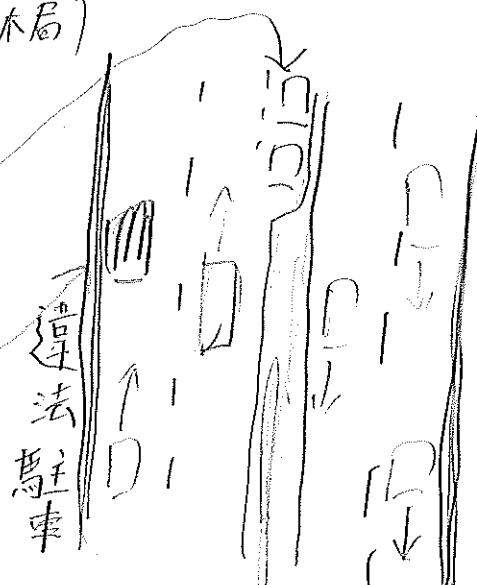
ソフト的対策

交通管理

渋滞の定義

高速 40 km/h

一般 5 ~ 10 km/h



パークアンドライド ← 車で駅まで行き、駅からは電車

話し合い

今後の方針

水曜日にアドバイザー教員の所へ、アポについて相談
来週は、渋滞について深くしらべる

報告日: 20__年__月__日

都市環境プロジェクト実習 グループ報告書

グループ: 棚橋班

班長氏名: 川崎 健太

口頭報告者氏名: _____

今回やったこと.

テーマの方向を先生に相談しつつ進め、資料を集めました。

- 住宅地の道路をつくるには、住人の安全性と利便性が重要なので、コミュニティゾーン形成事業
 - ・あんしん歩行エリア
 - ・くらしのみちゾーンの資料を集めた。

次回は今日集めた資料をまとめる。

○

都市環境プロジェクト実習 グループ報告書

グループ: すみ班

班長氏名: 木村 久保

堀川の浄化に向けての対策を調べた。
名工大のホームページを見つけ、
堀川の水が汚れているので、それをもっとよく調べるか考えた。
調べると、主にエアレーション手法や植生による浄化があった。
この対策の他にも速くした対策と考えられるような
汚水の原因についても調べる。
今後は エアレーション手法や下水処理場、
このり、堀川の流水と2人ずつわかれて調べる。
来週、再来週には、堀川に行く予定だったが
堀川に行く予定を調べるがあまりに忙しいので
中間報告の後に行くことにした。

都市環境プロジェクト実習 グループ報告書

グループ: 嶋田 班 班長氏名: 杉浦 晃一 口頭報告者氏名: 鷲見

・インターネットで今後起こるかもしれない水害とその対策を調べた。

<今後おこりうる水害>

局地的集中豪雨: 狭い地域に、短時間の間に多量の雨が降ることといい、その原因は、人為的な「ヒートアイランド現象だ」といわれています。

<今後の対策>

・豪雨に耐えられる排水システムの開発、アスファルトを透水性の高いものにして、水を地下に通すなどの対策。

・個人による自衛対策と水害の備え、浸水被害に遭わないような所への立地にくらす。

<今後の計画>

来週は、今日の調査したものを簡単にまとめる。

都市環境プロジェクト実習 グループ報告書

『中部国際空港を建設する際に行われた環境アセスメントについて考えてみよう』

グループ: 水澤 班

班長氏名: 田口知弘

口頭報告者氏名: _____

◆ 今日の内容

愛知県環境調査センターに見学に行ってきました。

(大同町^{名鉄}⇒金山^{地下鉄}⇒平安通^{地下鉄}⇒上飯田^{徒歩}⇒愛知県環境調査センター)

◆ まとめ

1、愛知県環境調査センターで行っている具体的な内容…

- ・大気圏部…大気や工場排出ガス中の各種汚染物質の調査・研究。
- ・水圏部…川や湖、海の水質・底質の監視や保全の調査・研究。
工場排水中の有害物質や汚濁物質の調査・研究。
- ・生活環境部…航空機、新幹線、自動車などの騒音や振動の調査・研究。
産業廃棄物などの調査・研究。
- ・応用科学部…環境中のダイオキシン類や各種化学物質、放射能などの調査・研究。
- ・企画情報部…調査・研究の企画調整、環境情報の収集・解析、環境学習の実施、
環境経営・環境技術の支援。

2、中部国際空港の場所や空港島の形は、事前の環境アセスメントで長く検討されて今のようになっているわけで、メリットはあの辺り(常滑沖)は浅瀬なので建設費を抑えることができること、航路が陸地にかからないので騒音問題に発展しにくいということや潮の流れが影響を受けにくいということです。デメリットは漁業ができる範囲が狭くなることなどがあります。

3、愛知県環境調査センターの中身や、行っていることを詳しく、わかりやすく教えていただきましたので、大変貴重な体験になったと思います。

◆ 今後の予定

インターネットでの事前調査、見学会、頂いた資料をまとめ、パワーポイントやパネルにまとめて発表できる形にする。その際にまたわからないことがでてきたら電話等でセンターの方に聞きます。

坂部先生にお礼のメールをしました。

都市環境プロジェクト実習 グループ報告書

グループ: 酒造班

班長氏名: 中田 康仁

口頭報告者氏名: 永井 俊孝

、今までの資料の確認。

発表計画を立てて、それについて 足りない部分を各自調べた。

- ・リサイクルとは何か、
 - ・リサイクルを行わなければならなくなった原因、
 - ・リサイクル法ができて前はどんな状態だったか、
 - ・あいくる材(再資材、再資源製品)の利用率など)を調べた。
- 発表計画が具体的にた。

④これから、

愛知県企画課の見学を考えているので、質問内容を具体的に
決めたいと思う。

資料をまとめる。

⑤ 市からたす

リサイクルを行わなければならなくなった原因は、不法投棄等の不適正処理
が行われるようになったため。

● リサイクル法 誕生以前の状況

リサイクル法 誕生以前は、最もやかいな人間の糞尿が肥料として利用され
農業生産の効率を高める点などで、技術的にも経済的にも循環型システムが
成立していた事がわかった。

・あいくる材の利用状況、使用率などがわかった。

都市環境プロジェクト実習 グループ報告書

グループ: 堀内 班

班長氏名: 野末 菜人

今後の予定の変更・テーマの見直し

1/6・現地調査のまとめ・資料の見直し・まとめ・パワーポイントの内容考察

1/8・パワーポイントによるまとめ・話し合い

1/10・中間発表

方向性とテーマについて話し合い、

何を学ぶのかを改めて見直しました。

意見を重視していく!!

・「人」、「干潟の生物」の視点から現状を考えてみる」… テーマ

「現状と過去を知り個人での対策案を出し、話し合う。

「干潟のまわりの環境にも考えていかなければならない。」

… 方向性

次は、資料を見て話し合い、^{まとめ}パワーポイントの下地を作る。

テーマ・「藤前干潟を保全する対策について考えよう」

発表者 股部 圭祐

都市環境プロジェクト実習 グループ報告書

グループ: 舟渡 班

班長氏名: ひさた

やったこと

- ・長谷川先生に質問をする質問文の作成

パワーポイントの作成

成果

- ・質問文はまた下書きの段階で完成した質問文はまた一つしかできていない。

- ・長谷川先生のアポイントメントはまだ返事がきていないのでいつになるかわからない。

パワーポイント

- ・表紙, 森の役割, 名古屋市の現状, のページを作成。

- ・あと2回しかないのではせめにとりくみました。

来週

パワーポイントの5枚りの作成

質問文の作成

都市環境プロジェクト実習 グループ報告書

グループ: 大東 班

班長氏名: 見田圭司

口頭報告者氏名: 三瀬雅也

・ 現地調査を行う予定だったが、欠席によりグループメンバーが揃わず、
行き先の決定に時間がかりすぎていたため、資料集めた専念することにした。

・ 土壌グループ

資料がたくさんあったので、使えるものかどうかの判別と、それにより分かった
足りない部分等を見つけた。(汚染の調査など資料が多かったが浄化方法は少なかった。)

・ 地下水グループ

インターネットで調べたところ、

○ 地下水は地中に存在する水の一種であり、地中に存在する水は
地下水と土壌水に分けられる。

また地下水を動かしているのは水圧ではなく、地下水ポテンシャルが
関係していることがわかった。

・ 地下水ポテンシャルとは

地下水ポテンシャル = 重力ポテンシャル + 圧力ポテンシャル

となっており、高い方が低い方へと流れるポテンシャル流れに
つながっている。

次回は、名前しか知らない浄化法の内容を調べようと思います。

報告日: 2006年 10月 30日

都市環境プロジェクト実習 グループ報告書

グループ: 下島班

班長氏名: 宮本拓海

口頭報告者氏名: 森日泰有

10/30 今日調べたこと

- ・ 主な原因・対策
- ・ 弊害

< ヒートアイランド現象の主な対策として ... >

- ・ 屋上緑化

ビルなどの屋上を緑化することにより、

60℃だった表面温度を35℃まで下げることが出来る。

- ・ 壁面緑化

屋上緑化と同じような効果を得る。

コンクリートの壁と比べて最大10℃下げることが出来る。

- ・ 保水性

道路の表面温度が上がるのを抑えるための

保水性舗装で、雨を利用して約10℃程度

表面温度を下げる事が出来る。

今後の予定は、不十分なところなどを調べ

パワーポイントでまとめる。来週までに

質問事項をまとめる。

報告日：2006 年 10 月 30 日

都市環境プロジェクト実習 グループ報告書

グループ：事口 班 班長氏名：横田 口頭報告者氏名：山田

平成 17 年における濃尾平野の地盤沈下の状況

平成 17 年に沈下した水準点

- 観測水準点 1,275 点のうち 547 点(約 43%)。(平成 16 年は約 65%)
 - 年間 1 センチメートル以上の沈下点の総数は 18 点。(平成 16 年は 27 点)
 - 最も沈下した水準点は愛知県犬山市で 2.08 センチメートル。
2. 年間 1 センチメートル以上の沈下域は約 41 平方キロメートルである。(平成 16 年は約 9 平方キロメートル)
 3. 最近 5 年間で累積沈下量の大きな水準点は濃尾平野中西部に分布しており、最大は岐阜県海津市の水準点で 6 センチメートル。
 4. 累積沈下量が 1m 以上(昭和 36 年～平成 17 年までの 44 年間)
 - 木曽三川(木曽・長良・揖斐川)の河口部周辺域と日光川の中・下流域。
 - 最大累積沈下地点は三重県桑名市の水準点で 158 センチメートル

地下水位の状況

年平均地下水位の変動量について(平成 16 年～平成 17 年)

- 平成 17 年の地下水位の状況は、G1 層(第一礫層)の観測地点では、全体の約 9 割の地点で平成 16 年に比べて低下
- G2 層においても約 6 割の地点で平成 16 年に比べて低下している。一方、G3 層では約 6 割の地点が平成 16 年に比べて上昇している。
- 平野全体の地下水位の経年的な傾向をみると、横ばいまたは上昇。

まとめ

平成 17 年の状況としては、平野中西部において 1 センチメートル以上の沈下があり、また、平野北東部において沈下域が形成されていることから、依然として沈下が継続している状況である。沈下域の形成に関しては、平成 17 年が年間を通じて少雨であったこと、秋季以降において木曽川の河川水位及び犬山付近の地下水位が例年に比べて低下していること、付近一帯に比較的強い地震が発生したことなど複数の要因が原因として考えられる。依然として沈下の著しい地域において沈下が進行しており、また、砂礫層を中心とした地盤沈下が起こりにくいと考えられる地域にも、複合的な要因によって地盤沈下が起きることも想定されることから、引き続き地盤沈下状況の観測・監視、地盤沈下対策を継続して行う必要がある。

「地下水の利用の現状」

現在、地下水は生活用水（飲料用、調理用、浴用等）、工業用水（飲食品製造業、原料用、洗浄用、冷却用等）、農作物栽培用、温調等用、幼魚用水等、各種の用途に利用されている。また他にも都市蓄熱（ヒートポンプ、ヒートパイプ等）、湧水公園等の環境用水といった多様な用途に利用されている。

用途	地下水使用量 ^{億m³/年}	地下水用途 [%]	全水使用量 ^{億m³/年}	地下水依存 [%]
生活用水	35.5	28.6	160.9	22.1
工業用水	35.9	28.9	121.4	29.5
農業用水	33.0	26.6	556.9	5.9()
養魚用水	13.2	10.6		
建築物用等	6.5	5.2		